

# 拉致、韓国語 体験交え

テーマは「韓国文字（ハングル）で自分の名前を書いてみよう」。高校生たちはハングルで名前の表記に挑戦したが、慣れない文字に間違いが続出。誤って書いたハングルの名前を蓮池さんが読み上げると、笑いが起きて打ち解けた雰囲気になりました。

授業後には、生徒から北朝鮮での暮らしや、国際情勢に関する質問があった。「北朝鮮に拉致被害者はまだいるんですか」という質問には、拉致被害者に関する同国の報告書に誤りが多かったことや、死亡と判断された被害者の遺骨のDNAが別人のものに分かったことなどを説明。

## 事件の経緯 生徒に説明

「北朝鮮の伝えることはでたらめが多く、被害者は八百人くらいいるとも言われている。一九七八年に私は拉致され、そのころに被害があったとすれば年齢的に生きている人がいる可能性は高い」と答えた。

蓮池さんが帰国した二〇〇二年当時は一歳で、事件を知らなかったという三年の高慶かわりさん（せいは「知らないことがたくさんあった。これを機に日本と北朝鮮との関係を勉強してみたい」と話した。

講座は同校が数カ月ごとに外部から講師を招いて開く授業の一環。一〜三年の約二十人が参加した。



生徒たちに打ち解けた様子で韓国語を教える蓮池薫さん＝富山市新桜町の第一学院高で

## 蓮池さん 第一学院高で出前講座

北朝鮮による拉致被害者で新潟産業大准教授の蓮池薫さん（六〇）が韓国語を教える出前講座が十七日、富山市新桜町の第一学院高校であった。

ハングル表記や簡単な日常会話などを高校生に指導し、授業後には拉致事件への思いを語った。（向川原悠吾）